

# 国際科学オリンピックで多くの成果

## 過去最高の成績 代表が伊吹文科相に報告

国際科学オリンピックの日本代表選手が凱旋帰国した。国際科学オリンピックでは、金メダル2名、銀メダル2名、銅メダル1名、3名という過去最高の成績を残した。また、国際化学では4名が銅メダルを獲得した。



代表に語りかける伊吹文科大臣(右)

伊吹大臣は「日本人で初選手の誠実な活躍に敬意を表すとともに、彼らを支えた日本国内大会の仲間、指導の先生方、文部科学省、JST、JSFなどの関係者に感謝しています。今回、日本選手が昨年の日本代表として最も感激したことです。」  
伊吹大臣は「日本人で初選手の誠実な活躍に敬意を表すとともに、彼らを支えた日本国内大会の仲間、指導の先生方、文部科学省、JST、JSFなどの関係者に感謝しています。今回、日本選手が昨年の日本代表として最も感激したことです。」  
伊吹大臣は「日本人で初選手の誠実な活躍に敬意を表すとともに、彼らを支えた日本国内大会の仲間、指導の先生方、文部科学省、JST、JSFなどの関係者に感謝しています。今回、日本選手が昨年の日本代表として最も感激したことです。」

## 物理分野 5人の高校生が参加 2人が金メダル獲得

国際科学オリンピックです。こんなに素晴らしい賞が取れて嬉しいです。ランのイスファハンで開催された。69カ国・地域から326人の代表選手が参加した中、日本からは5名の高校生が参加した。  
日本は前回のシンガポール大会に初めて参加し、銀メダル1名、銅メダル3名、入賞1名という成績だった。今年、灘高校3年の高倉理さんと灘高校2年の村下湧音さんが金メダルを獲得した。高倉さんは「はじめは、メダルどころか入賞さえ難しいと思っていたのに、日本初の金メダルが取れるなんて本当にビックリです。こんなに素晴らしい賞が取れて嬉しいです。ランのイスファハンで開催された。69カ国・地域から326人の代表選手が参加した中、日本からは5名の高校生が参加した。」



「この大会に参加できたことを嬉しく思うと同時に、その過程で支えてくださった先生方に感謝します」と

銅メダルを獲得した大阪貴さんは「試験を受けた後、は7月15日から22日、カナダのサスカトゥーンで開催された。日本は3回目の参加で、4名の高校生と高専生が参加した。これまでは銅メダル2個(05年)、銅メダル3個(06年)という成績だったが、今回はそれを超える好成績をあげた。昨年参加した銅メダルを返上し、今年も銅メダルを獲得し、全員メダル獲

## 今年の銅から銀へ —生物学分野に高校生ら5人が— 09年筑波大会は全力で

からプレゼントされて持つ、興奮をチェックしたうえで、実際に進め方を想像しながら折り紙は、他の国の選手との交流に大いに役立ち、大変注目されていました」とコメントしている。  
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長の北原和夫・国際基督教大学教授は「選手はもうろんで、役員もよく敢闘したと思います。特に翻訳には細心の注意を払い、実験器

## 化学分野 参加全員が銅メダル 「目標は金、少し残念」



化学分野代表と伊吹大臣(前列中央)

国際化学オリンピックは、7月15日から24日、ロシアのモスクワで開催され、獲得した。昨年銀メダルを獲得した筑波大学附属駒場高校3年の角田翔太郎さんと卓思さんは初参加。角田さんは「金メダルを取ることができて、周りのみんなに感謝しています。今年も銅メダルを獲得し、全員メダル獲

